

Zero Energy Fields Cosmology

○内野 公雄^{1,2} (1.himawarinowa lab. 2.代表)

新しい概念の宇宙モデルを提案します。このモデルは、母体となる普遍的な宇宙の内部に我々の宇宙が存在して、両宇宙空間は相互依存性を持ち合いながら共存しているというものです。その共通因子が、Zero Energy Fields (以下ZEFと略す) の存在なのです。添付画像は、透明なガラスの器に水を入れて台の上に置き、定期的に振動を与え続けると、有機化合物のような光の立体模様が現れ始めたのです。さらに続けると、立体模様に縞が現れてきたのです。そのタイミング捉えて器の外部から撮影しています。この実験を宇宙モデルのベースにして、新しい概念の宇宙空間について考察を加えてみたいと思います。絶対零度、真空状態まで空間のエネルギー密度を下げていくと、少なくとも運動エネルギーの存在そのものがゼロになると考えられます。ところが、カシミール圧力やラムシフトなどの理論、実験観測などによると、宇宙の構造そのものが持つ最低のエネルギーである真空の揺らぎが存在して、空間のエネルギー密度が常に変動しているのです。添付画像の実験でも存在していた密度エネルギーの揺らぎが、真空空間にまでも続いているのです。もちろん揺らぎのエネルギー密度レベルそのものは大きく違います。このようなエネルギー状態の場をZEFと呼ぶことにします。そもそもZEFの現象を持つのが母体宇宙場であり、そこから拡大生成されてきたのが我々の宇宙場なのだと思います。エネルギー密度の異なる場の接触境界面の存在がコスミックウェブであり、相対的に負のエネルギー場を持つ母体宇宙場と正のエネルギー場を持つ我々の宇宙場を結びつけているのが、巨大ブラックホールが存在なのだと思います。少なくとも、巨大ブラックホールの存在が両宇宙場の運動エネルギーを平準化する働きを担っていると考えられるのです。また、カシミール圧力が母体宇宙場のZEFのみならず、我々の宇宙場にも存在するのは、両宇宙場が何らかの形でつながっている証拠なのではないか。加えて、ZEFの揺らぎが存在することによって、正のエネルギー場と負のエネルギー場の両場間の揺らぎが拡大し、我々の宇宙場の拡大膨張を可能にしている。最後に、我々の宇宙は母体宇宙を押し広げながら存在しているとすれば、母体宇宙からの復元力という圧力を絶えず受けていることに気付かされるのです。そのお陰で我々の宇宙の秩序を形成できているのだと思えるのです。

